

奈良俣ダム

OKUTONE

■ 概要

奈良俣ダムは、利根川支川檜俣川に建設された多目的ダムで、高さ158mのロックフィルダムです。昭和49年4月に実施計画調査に着手後、昭和56年1月に工事を開始し、厳しい気象条件を克服しつつ、平成3年に完成しました。また、檜俣川に隣接した湯ノ小屋沢川の水をダム貯水池に導くために、取水堰と導水トンネルを設けています。

■ ダムの働き

□ 防災操作

洪水期(7月1日から9月30日)において、ダムサイトにおける計画高水流量毎秒370m³のうち毎秒337m³を調節して、利根川上流の他のダム群とともに、下流の流量を低減させます。

□ 流水の正常な機能の維持

利根川上流ダム群とともに、利根川沿岸の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図ります。

□ 新規利水

・ 農業用水

千葉県東総用水地区の農地に対するかんがい用水として、夏期かんがい期(4月26日から9月30日)において平均毎秒0.69m³、冬期かんがい期(10月1日から4月25日)において平均0.08m³のかんがい用水を補給します。

・ 都市用水

下流県の水道水として最大毎秒8.045m³の取水を、また、群馬県の工業用水として最大毎秒0.65m³の取水をそれぞれ確保するように放流します。

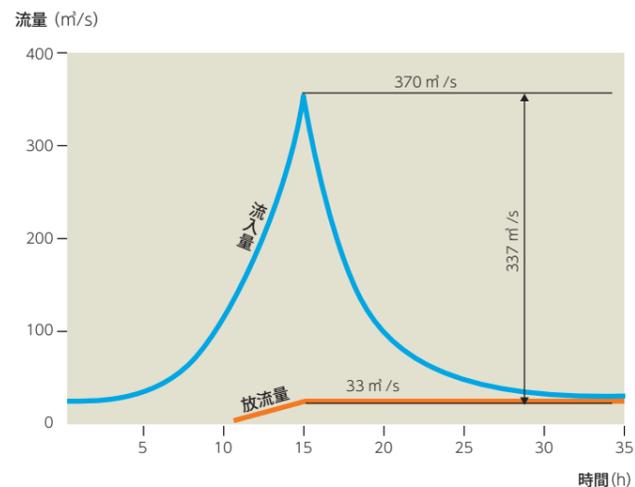
□ 発電

群馬県奈良俣発電所により、最大毎秒11m³の水量を利用して、最大出力12,800キロワットの発電を行います。

都県別用水供給表 (単位: m³/s)

用水名	農業用水 (平均)	水道用水 (最大)	工業用水 (最大)	合計
都県名				
群馬県	-	2.435	0.65	3.085
茨城県	-	0.179	-	0.179
埼玉県	-	0.951	-	0.951
千葉県	0.69	2.41	-	3.10
東京都	-	2.07	-	2.07
合計	0.69	8.045	0.65	9.385

防災操作図

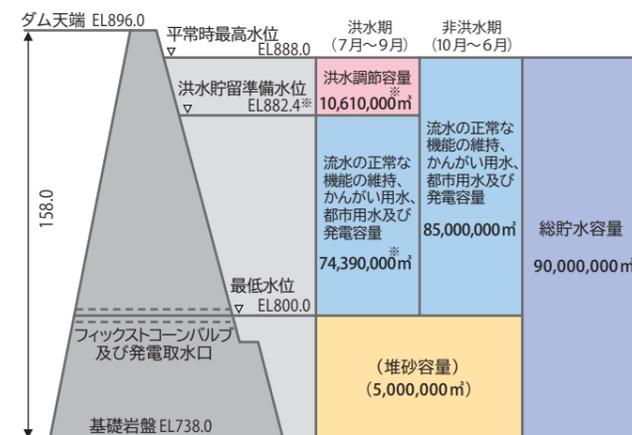


洪水期において、ダム地点における計画高水流量370m³/sのうち、337m³/s*の洪水を調節し、下流への放流量を抑えることで洪水被害を減らします。

高さ158mを誇る奈良俣ダム

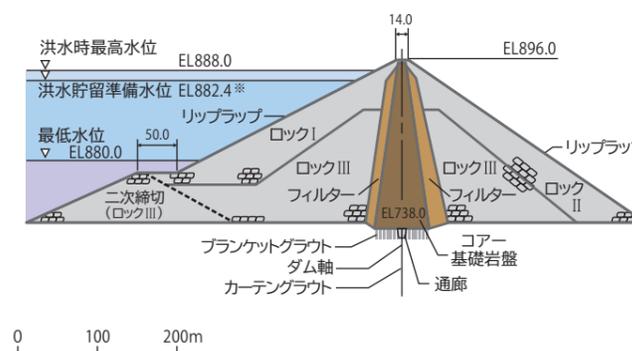


貯水池容量配分図



*藤原・奈良俣再編ダム再生事業(令和2年度~令和4年度)による、藤原ダムの利水容量と奈良俣ダムの洪水調節容量の振替

奈良俣ダム標準断面図 (単位: m)



ダム	
河川名	利根川水系檜俣川
位置	群馬県利根郡みなかみ町藤原字奈良俣
型式	中央土質遮水壁型ロックフィルダム
堤高	158m
堤頂標高	896m
堤頂長	520m
堤頂幅	14m
堤体積	13,100,000m ³
導水路延長	3.11km(馬蹄形型、内径2.65m)

貯水池	
名称	ならまた湖
集水面積	95.4km ²
直接流域(檜俣川)	60.1km ²
間接流域(湯ノ小屋沢川)	35.3km ²
湛水面積	2.0km ²
常時満水位	標高888.0m
洪水期制限水位	標高882.40m*
最低水位	標高800.0m
総貯水容量	90,000,000m ³
有効貯水容量	85,000,000m ³
堆砂容量	5,000,000m ³

*藤原・奈良俣再編ダム再生事業(令和2年度~令和4年度)による、藤原ダムの利水容量と奈良俣ダムの洪水調節容量の振替